

1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

JAたいせつ地域は道内有数の米産地であり、従来から当地域の基幹作物として全道一を目指し「売れる米づくり」の推進に取り組み、また、生産調整の対応から加工用米等の作付けにより、水稻水張り面積を確保して参りました。

更には主食用米としての流通ではありますが、平成23年産米より本格的な玄米の輸出についても取り組んでおります。

畑作物については、麦・大豆・そば等の土地利用型作物の作付け推進を図っておりますが、品質、収量が不安定な現状にあり、作付面積は微増の状況にあります。

野菜については、水稻との複合経営の柱として野菜振興を重点的に取り組んでおりますが、販売価格の低迷・経営規模の縮小・家族労働力の減退等が課題となり拡大増加は難しい状況となっております。

飼料作物については、酪農・畜産の振興と生産調整の対応から飼料作物の生産振興により水田の有効活用を図り、地域内の有畜農家へ安定供給を図っております。

また、その他生産調整の対応として、畑作物の作付けが適合しない生産条件不利地の場合、地域の観光資源の一翼を担う景観形成作物や地力増進作物による農地保全を兼ねた取り組みにより、耕作放棄地の発生を防ぎ良好な水田環境の確保を図ってきました。

地域の問題として、基幹作物である水稻は生産者数が年々減少しており、地域の担い手が農地の受け手となることで、かろうじて作付面積の維持を図っているところではありますが、高齢化等による後継者の不足や農繁期の慢性的な労働力不足は大きな課題となっております。

今後は上記課題を踏まえ、他の労働力確保事業やICT等に代表される省力化技術の導入等により地域の生産体制の再編を早急に図り、農地中間管理事業等を活用した担い手への農地集積や農地保全型作物からの転換による、非主食用米・土地利用型作物・高収益作物の生産により、地域全体の収益力向上を図って参ります。

2 作物ごとの取組方針等

(1) 主食用米

道内有数の主産地として実需のニーズに応える、高品質米の安定生産に取り組むとともに、生産の目安の遵守に努めます。

(2) 非主食用米

ア 飼料用米

今後、取り組みを検討致します。

イ 米粉用米

今後、取り組みを検討致します。

ウ 新市場開拓用米

生産の目安の遵守にむけた主食用米面積からの置き換わりや、農地保全型作物からの転換作物として積極的に取り組み、作付面積の拡大を図ります。

エ WCS用稲

今後、取り組みを検討致します。

オ 加工用米

ホクレンを中心とした従来の高価格帯に加えて、低価格帯も含めた需要に即し

た計画生産と安定供給により、特色ある加工用米の生産を図ります。

(3) 麦、大豆、飼料作物

担い手を中心に米に続く産地の形成を実現するため、小麦・大豆・飼料作物等の土地利用型作物による作付け推進を積極的に展開し、高品質・安定生産のできる生産基盤の強化を目標に取り進めます。

特に小麦・大豆については、地域の戦略作物と位置付け、認定農業者を中心とした地域担い手の所得増加につながる生産体制の確立を目指し、転作田での作付けによる条件不利是正むけた、生産性向上取り組みにより、実需ニーズに合った高品質小麦・大豆の生産及び収益性の向上を推進します。

飼料作物については、地域内の有畜農家へ安定供給することにより、地元資源を有効に活用した安全で高品質な畜産物の生産を推進します。

また、飼料作物のうち、牧草の作付けにあたっては、耕畜連携（資源循環）に積極的に取り組み、地元資源を有効に活用した安全で高品質な畜産物の生産を推進します。

(4) そば、

農地保全型作物からの転換を進めるとともに、転作田での作付けによる条件不利を是正するため、排水性改善対策等の生産性向上取り組みにより、実需ニーズに合った高品質そばの生産及び収益性の向上を推進します。

(5) 高収益作物・地域振興作物

(野菜・花卉・採種・ポップコーン用とうもろこし・小豆・ハトムギ・ビール麦)

消費者に安心して選択してもらえる青果物の産地を目指し、人・環境に優しいクリーン農業の取り組みを推進するとともに、旭川青果物出荷組合連合会や各関係機関との連携を強化し、従来の推進品目に加え、高齢化による作付面積の縮小などから高収益品目及び軽量野菜の導入を図り、農産物直売所等での販売による地産地消を推進するため、消費者の需要に即した野菜・花卉づくりを振興します。

今後は野菜を地域の戦略作物と位置付け、作付面積の増加と、認定農業者を中心とした地域担い手の所得増加につながる生産体制確立を目指します。

また、農業所得向上にむけた取り組みとして、主に契約栽培となる花卉・採種作物・ポップコーン用とうもろこし・小豆・ハトムギの生産拡大に取り組み、農地保全型作物からの転換による地域全体の収益力向上を図ります。

(6) 畑地化の推進

必要により、取り組みを検討します。

3 作物ごとの作付予定面積

作物	前年度の作付面積 (ha)	当年度の作付予定面積 (ha)	2020年度の目標作付面積 (ha)
主食用米	3,360	3,294	3,250
飼料用米			
米粉用米			
新市場開拓用米	67	68	120
WCS用稲			
加工用米	146	212	250
備蓄米			
麦	245	250	270
大豆	72	110	117
飼料作物	636	620	600
そば	15	30	35
なたね			
その他地域振興作物	193	204	190
野菜	55	56	65
採種作物	16	19	25
花卉・小豆・雑穀等	3	14	25
景観形成作物	102	90	50
地力増進作物	17	25	25

4 課題解決に向けた取組及び目標

整理 番号	対象作物	用途名	目標	目標値	
				前年度（実績）	
1	小麦	小麦省力化・生産性 向上取組助成	取組面積	(2018年度) 242ha	(2020年度) 270ha
2	大豆	大豆省力化・生産性 向上取組助成	取組面積	(2018年度) 71ha	(2020年度) 117ha
3	野菜	高収益作物助成 (野菜)	作付面積	(2018年度) 54ha	(2020年度) 65ha
4	地域振興作物 (花卉・小豆・採種等)	高収益作物助成 (地域農業振興作物)	作付面積 契約出荷率 (ハトムギ、ビール麦)	(2018年度) 19ha (2018年度) 90%	2020年度) 50ha (2020年度) 100%
5	飼料作物	飼料作物生産性 向上取組助成	取組面積	(2018年度) 16ha	(2020年度) 100ha
6	飼料作物	資源循環取組助成 (耕畜連携)	取組面積	(2018年度) 274ha	(2020年度) 350ha
7	景観形成作物	地域農業構造 改善対策助成	作付面積	(2018年度) 102ha	(2020年度) 50ha
8	地力増進作物	地力増進対策助成	作付面積	(2018年度) 17ha	(2019年度) 25ha
9	新市場開拓用米	新市場開拓用米 取組拡大助成	作付面積	(2018年度) 67ha	(2020年度) 120ha
10	そば	そば作付助成	作付面積	(2018年度) 15ha	(2020年度) 35ha
11	飼料作物	飼料作物担い手 育成助成	取組面積	(2018年度) 0ha	(2020年度) 450ha

※ 必要に応じて、面積に加え、当該取組によって得られるコスト低減効果等についても目標設定して下さい。

※ 目標期間は3年以内として下さい。